

米トランプ政権が従来の戦略見直しを検討

北朝鮮問題

金正男氏暗殺問題

国際的

無法やめよ

金正恩（キム・ジョンウン）朝鮮労働党委員長の異母兄である金正男（キム・ジョンナム）氏がマレーシアで暗殺されました。

志位氏は2月16日の記者会見で事件への見解を問われ、「報道をみるかぎり、北朝鮮の犯行だと考えている。独裁政権の非道さを示すものであり、外国で行われた犯行である点も重大で、主権の侵害だ」と指摘しました。

北朝鮮は拉致事件など無法行為を繰り返してきました。

志位氏は「北朝鮮に、こうした国際的無法をやめ、拉致問題を含めて過去の無法をきちんと清算することで、国際社会の責任ある一員になるよう強く求めたい」と強調しました。

外交交渉の中で 非核化迫れ 共産党・志位委員長が提唱

北朝鮮の核・ミサイル開発をいかに止めるか。日本共産党の志位和夫委員長はNHK「日曜討論」（19日）とそれ続く記者団の質問への発言で、日本共産党の立場を明らかにしました。

志位氏は、米新政権が、オバマ政権時代の対北朝鮮政策（「戦略的忍耐」）の変更を検討している新たな動きに触れました。オバマ政権がとってきた「戦略的忍耐」とは、北朝鮮に経済制裁を行う一方、北朝鮮が非核化の意思を示さないかぎり

り外交交渉には応じないというものです。しかし、この政策のもとで、北朝鮮は核・ミサイル開発を進めてきました。変更の検討は路線の破たんを示すものです。

その上で、志位氏は、「問題は『政策の変更』の方向だ。一部に先制攻撃などの軍事的選択肢が言われるが、これは絶対にとるべきではない」と強調しました。

実際、トランプ政権のメイス米国防長官は、すべての選択肢をテーブルの上に乗せている。とのべ、軍事力行使の選択肢も排除していません。しかし軍事の選択肢―先制攻撃は絶対にとってはなりません。

志位氏は外交的解決を主張し、「（北朝鮮との）外交交渉のなかで非核化を迫る。経済制裁の圧力と二体になって、（北朝鮮の）核兵器の開発、ミサイル開発の手を縛り、放棄に向かわせる。この方向で、いま国際社会が新しい方向に進む必要があるし、日本はそういう方向で働きかけるべきだ」と提唱しました。

外交交渉を通じて平和的解決を!!

核開発やミサイル発射、非道な犯行など北朝鮮の暴挙は絶対に許せません。軍事対軍事で対決するのではなく、あくまで外交交渉の中で北朝鮮の非核化などを迫ることが大切です。そのために全力をあげます。



参議院議員（東京選挙区選出）
弁護士

やまぞえ・たく

山 添 拓



ご意見・ご要望は 03-3370-0311、FAX 03-3370-0471
2017年2・3月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社（港区芝1-4-9 平和会館5階）1965年11月12日第三種郵便物認可

日本共産党